

## 農家の「生きざま」にスポット

# 迫力ある写真「魅せる」農業誌創刊

【いばらき】水戸市で印刷・広告業を手がける㈱クロスメディア水戸は、農業者の「生きざま」にスポットを当てた農業雑誌「ONE'S LIFE・AGRICULTURE（ワンズライフ・アグリカルチャー）」を昨年12月に創刊した。一つの農作物をテーマに生産者らの足跡や思いを毎月特集。迫力ある写真としゃれたデザインで「見せる農業」に挑んでいる。

メディアクロス水戸がクリエイターというは、社員44人中、半数 制作重視の会社。特に

### 水戸市の印刷・広告会社



発刊した農業雑誌を紹介する高橋社長（水戸市で）

J A関連の仕事が多く、広報紙や情報誌、チラシ、ポスターなどを手がけている。ワンズライフの創刊も、J Aとの長年の交流とともに、「茨城の農産物ブランドینگに貢献し、農業を応援したい」（高橋裕社長）との思いから企画したという。

生産量日本一のレンコンを特集に選んだ。レンコン農家として活躍する5人の生産者をインタビュー。就農のきっかけ、農業経営、消費者への思いなどを時をにかけて取材し、迫力ある写真とともに、それぞれの生きざまを浮き彫りにした。

巻末には、レンコンを素材にした各種料理



迫力ある写真としゃれたデザインが目を引く誌面

をレシピ付きで紹介。また、料理人と笠間焼作家を組み合わせ、食と器の美しさも演出した。

第2号は3月にネギを取り上げ、「水戸の柔甘（やわらか）ねぎ」を特集。第3号は3月末にカボチャを特集。「江戸崎かぼちゃ」を生産する家族らを取り上げた。第4号は、茨城の有機農業をテーマにする予定だ。雑誌はB5判40〜42頁500円。県内の書店などで取り扱っている。

総合的な評価で、茨城デザインセレクトションで「選定」を受賞した。同誌を目にした農業団体から早速、「同じように作ってほしい」と冊子制作の依頼があり、サツマイモをテーマにした本を受注したという。

高橋社長は「ワンズライフは会社案内。この雑誌を通して紙の良さが伝わり、受注増につながってくればいい」と手応えを話した。